

有料着席列車・複々線化...etc.

190419

通勤電車なん

“充実一途” 首都圏大手私鉄 “座れる通勤電車” MAP



※所要時間は各電鉄会社のHPを参照し、編集部で算出したもの ※料金は着席指定券等の金額。別に乗車券が必要 ※着席指定券等は乗車前購入が原則。車内で購入する場合は別料金となる ※通勤利用が主目的でない有料特急は含まない ※詳細は各社ホームページなどをご確認ください



西武鉄道

S-TRAIN

運転本数	上り2本、下り5本
最短所要時間	上り60分(所沢→豊洲) 下り55分(豊洲→所沢)
料金	510円

拝島ライナー

運転本数	下り6本
最短所要時間	下り47分(西武新宿→拝島)
料金	300円 ※事前購入せず乗車した場合は+200円



京王電鉄

京王ライナー

運転本数	上り4本(京王八王子発・橋本発各2本)、下り10本(京王八王子行・橋本行各5本)
最短所要時間	上り42分(京王八王子→新宿)、40分(橋本→新宿) 下り35分(新宿→京王八王子)、32分(新宿→橋本)
料金	400円

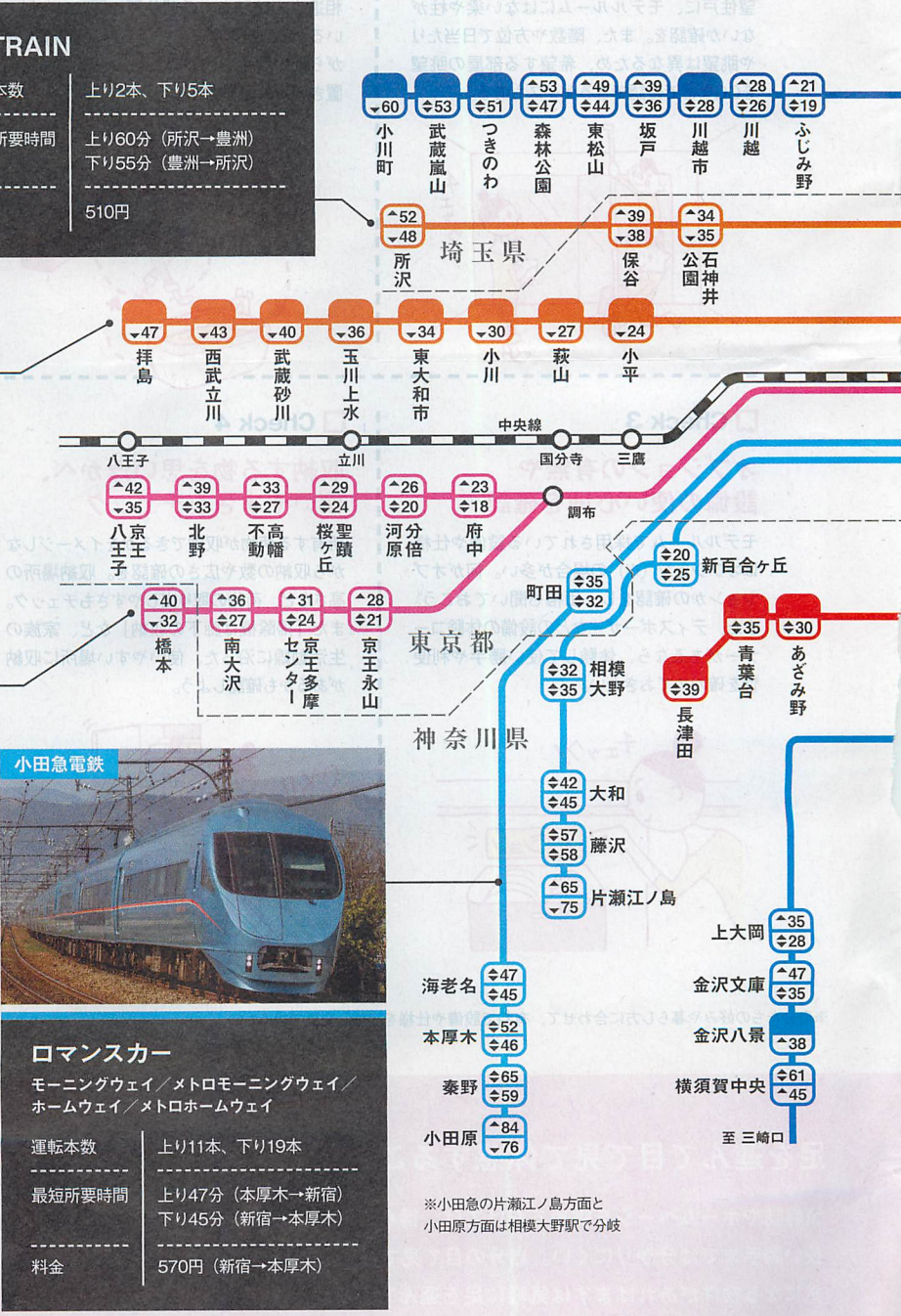


小田急電鉄

ロマンスカー

モーニングウェイ/メトロモーニングウェイ/ホームウェイ/メトロホームウェイ

運転本数	上り11本、下り19本
最短所要時間	上り47分(本厚木→新宿) 下り45分(新宿→本厚木)
料金	570円(新宿→本厚木)



※小田急の片瀬江ノ島方面と小田原方面は相模大野駅で分岐

私鉄9社・JR



でも比較

近年、首都圏において、大手私鉄を中心に
快適性を高めるべく、座れる通勤電車が
増えている。さらに直通運転の拡大による
利便性向上、複々線化などによる混雑緩和
にも取り組んでいる。そこで、今回は大手私鉄各社やJRの
最新TOPICSや各沿線の注目駅をピックアップ。
住まい選びのヒントにしていきたい。

構成・取材・文・撮影/鼠入昌史 イラスト/沼田光太郎 デザイン/taraco design



TJライナー

運転本数	上り2本、下り14本
最短所要時間	上り53分(森林公園→池袋) 下り60分(池袋→小川町)
料金	上り460円、下り360円



モーニングライナー・イブニングライナー

運転本数	上り(モーニング)4本 下り(イブニング)7本
最短所要時間	上り61分(成田→京成上野) 下り62分(京成上野→成田)
料金	410円



各社が快適さを追求する 郊外と都心を結ぶ通勤電車

ここ数年で大手私鉄各社が相次いで「座れる通勤電車」を投入している。際立って増えたのは2017年の西武の「S-TRAIN」以降で、2018年には京王の「京王ライナー」と東急の「Qシート」が登場。東京都心から郊外に延びる大手私鉄路線の大半に「座れる通勤電車」が走っている。さらにダイヤ改正の度に運転本数を増やし、充実度は年々高まっている。



モーニングウィング号・ウィング号

運転本数	上り(モーニング)2本 下り11本
最短所要時間	上り61分(横須賀中央→品川) 下り45分(品川→横須賀中央)
料金	300円

コーヒー1杯分の価格で “絶対座れる通勤電車”

これらの列車は1回当たり300~500円程度(乗車券別)と格安なのも特徴。コーヒー1杯分の料金で満員電車を回避し、快適な通勤時間を過ごせる。速達性もアップしており、例えば朝の「京王ライナー」は同時時間帯の他列車より約10分短縮。また、「S-TRAIN」のように平日は豊洲、土曜・休日は元町・中華街へとルートを変えるなど、利用の幅も広がっている。



Qシート

運転本数	下り5本
最短所要時間	下り39分(大井町→長津田)
料金	400円

各社の有料列車の特徴や
混雑緩和のための
取り組みをチェック!





東武鉄道

主な路線 スカイツリーライン（伊勢崎線）、東上線、野田線

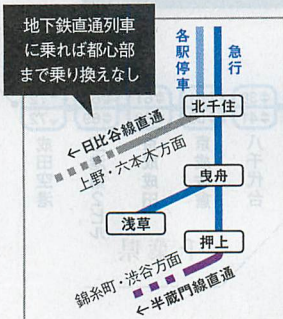
“座席指定”になったTJライナー スカイツリーラインは“私鉄日本一”の複々線

関東の大手私鉄では最も長い路線網をもつ東武鉄道では東上線とスカイツリーライン（伊勢崎線）に注目だ。東上線では2008年に“座れる通勤電車”「TJライナー」を導入した。現在は上り下り合わせて14本運転、3月にはこれまでの座席定員制から自分で希望の座席を選べる指定制に変更された。副都心線や東急東横線への直通運転も行っている。

一方、日比谷線・半蔵門線との直通運転を行っているスカイツリーラインでも、2020年度に有料着席サービスを導入予定。今でも「きぬ」「りょうもう」などの特急が走っており、通勤にも利用できる。



北千住から北越谷にかけては運転本数が倍近くに増える複々線で混雑緩和を実現



スカイツリーラインでは北千住駅から日比谷線に、押上駅から半蔵門線との直通運転を実施

注目の街

川越駅

¥ データなし □ 3件

蔵造りの街並みが人気で、年々観光客も増加している川越駅。2020年東京五輪では川越市の霞ヶ関カントリー倶楽部がゴルフ競技の会場になることが決まっている。同年には、駅の西口で飲食店や医療施設が入る商業施設（画像）もオープン予定。街のにぎわいや住環境の利便性が増しそうだ。



画像提供：川越市

2020年度にはスカイツリーラインにも着席通勤電車が



西武鉄道

主な路線 池袋線・新宿線・拝島線・国分寺線

新型特急「Laview（ラビュー）」デビュー 池袋～所沢間が最短で19分に短縮

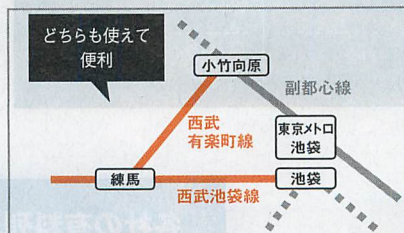


池袋線と新宿線の2路線が中心。池袋線は練馬から小竹向原を經由して有楽町線・副都心線と直通運転を行っている。“座れる電車”「S-TRAIN」は平日には所沢から有楽町線に直通、飯田橋・有楽町などを經由して豊洲までを結ぶ。今春からは新型特急「Laview（ラビュー）」が登場。池袋～所沢が最短19分と過去最速で朝夕の通勤時間帯にも運転されており、特急料金は池袋～所沢が400円。こちらに乗って賢質な通勤時間を過ごす手も。

新宿線は終点の本川越方面だけでなく、拝島線直通列車も走る。有料着席列車「拝島ライナー」は今年3月に1日6本に増便。



特急「Laview（ラビュー）」。今年度中に池袋線の全特急が置き換わる予定だ



池袋線の池袋駅経由でも、地下鉄経由でも利用できる定期券「だぶーと」も便利

注目の街

所沢駅

¥ 6230万円 □ 3件

所沢駅周辺は大規模プロジェクトが目白押しだ。駅を是らんで東西それぞれで再開発が進められており、駅前広場や商業施設、オフィス、300戸超のマンションなどが整備される予定。池袋まで20分以内で行けるようになり、エリアの利便性や資産性が今まで以上に高まりそうだ。



画像提供：西武プロパティーズ

S-TRAINは土曜・休日には横浜方面へ





京成電鉄

主な路線 京成本線・押上線・スカイアクセス線

特急「スカイライナー」で通勤できる！ 超快適&贅沢な“特急通勤”を

京成は、成田空港に向かうスカイライナーが有名だ。そのスカイライナーで使われる特急型車両に、通勤時間帯ならたった410円で乗ることができる。ライナー以外にも、浅草線直通で乗り換えなしで帰れるル

ートの他、JRなどから乗り換えやすい日暮里を利用したり、始発駅で座って帰れる京成上野を利用したりと複数のルートがある。東京と千葉を結ぶ路線では最も内陸を走り、強風影響を受けにくいのもメリットだ。

注目の街

船橋駅 ¥ データなし □ 1件

2018年2月にシャポー船橋南館が開業し、利便性が向上している船橋駅。また、西武船橋店の跡地に地上48階、地下2階の超高層タワーマンションを中心とした複合ビルを建設することが予定されている。



画像提供：PIXTA



画像提供：京成電鉄



画像提供：京成電鉄

広くて清潔感のあるトイレはスカイライナーの魅力のひとつ。他の着席列車ではなかなか味わえないリクライニング機能も



小田急電鉄

主な路線 小田原線・多摩線・江ノ島線

複々線化で混雑率が大幅に改善！ ロマンスカーで超快適通勤も可能

小田急「ロマンスカー」は新宿から箱根を結ぶ観光特急としてのイメージが強いが、朝夕には通勤特急としても利用できる。千代田線直通列車も運行されており、朝の町田～大手町なら最速49分で結ぶ。新宿

～町田は410円と手ごろな価格もポイント。さらに2018年に完成した代々木上原～登戸間の複々線化によって混雑率は192%から151%にまで激減。快適な通勤が実現している。

注目の街

本厚木駅 ¥ 4376万円 □ 4件

150戸規模のプロジェクトが複数進行中の本厚木駅周辺。南口の再開発により、2020年秋に広場の整備や高層ビルが建設予定（画像）。住居のほか、商業施設や医療施設が入り、新たなランドマークとなりそうだ。



画像提供：三菱地所レジデンス



2018年3月にデビューしたばかりの新型ロマンスカー-GSE。広い窓と座席周りが特徴で、前面展望が楽しめる展望席も



画像提供：小田急電鉄



「ロマンスカー」は車両が5種類。展望席は通勤時間帯も人気

JR

主要路線にはグリーン車を連結、中央線には新型特急も

東海道線や湘南新宿ライン、宇都宮線などの主要路線にはグリーン車が連結されており、モバイルSuicaなどでグリーン券を購入すれば着席は保証されないものの、より快適に通勤できる。さらに東海道線には「湘南ライナー」、高崎線には「スワローあかぎ」など通

勤ライナー・特急も充実。中央線にも新型車両を使った特急「はちおうじ」「おうめ」が運転を開始し、常磐線特急も通勤利用が多い。都心部では山手線新駅の高輪ゲートウェイ駅が2020年に暫定開業予定と、JR各線の利便性も年々高まっている。



車内の快適性が大幅に向上した中央線特急の新型車両。甲府・松本方面への特急がメインだが、通勤特急「はちおうじ」「おうめ」でも使われる



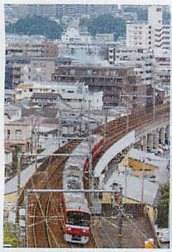
京浜急行電鉄

主な路線 京急本線・久里浜線・空港線

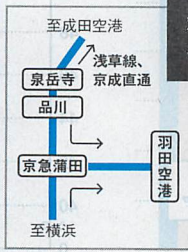
首都圏の私鉄では最速を誇る路地裏の超特急 横浜方面から羽田・成田の両空港へも

最高速度120km/hで横浜方面の住宅街を駆け抜ける京急電鉄。そのスピードやダイヤ乱れ時の回復の早さなどで沿線住民からも厚く支持されている。朝夕には1992年デビューの「ウイング号」なら着席保証。使

用する2100系は首都圏私鉄唯一の全席クロスシートで快適性も高い。京急蒲田経由で羽田空港に直通するほか、泉岳寺経由で都営浅草線・京成に直通、成田空港にも乗り換え無しで行けることができる。



沿線は横浜市内の住宅地が中心。多くの駅前には系列のスーパーもある



京急蒲田駅の高架化で横浜方面から羽田空港へも乗り換えなしに



120km/hという高速運転、ダイヤ回復も早い

注目の街

上大岡駅 ¥4075万円 3件

快特に乗れば、品川まで30分以内で行くことができる上大岡駅。京急線72駅中、乗降客は横浜・品川に次ぐ3位。大型複合施設ミオカの北側に複合ビル建設の計画が進行中。商業施設のほかに住戸が310戸入る予定だ。



画像提供：PIXTA



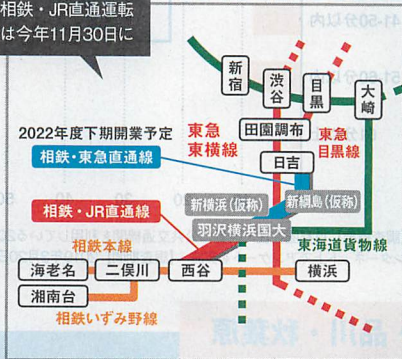
相模鉄道

主な路線 相鉄本線・いずみ野線

11月末にJR線と直通運転を開始 新宿方面へ乗り換え無しに

横浜から西に延びる相模鉄道は、大手私鉄の中では唯一東京都心に直結していなかった。それが今年11月末にJR線との直通運転をスタートする。二俣川から新宿まで乗り換え無しで、約44分でアクセス可能。今までの横浜駅乗り換えと比べれば約15分も短縮される見通しだという。さらに2022年度下期には東急線との直通も開始予定。都心部へのアクセスが大幅に向上し、今後最も注目される通勤路線になりそうだ。

相鉄・JR直通運転は今年11月30日に



相鉄線からJR・東急への直通は西谷駅から現在建設中の直通線を経由。東急直通線では新横浜を経由するため、東海道新幹線乗換の利便性も向上する

注目の街

羽沢横浜国大駅

今年11月30日に相鉄・JR直通線の開業に伴い、新設される羽沢横浜国大駅。新駅の駅前には商業施設やマンションのほか、子育て支援施設などが入る複数の中高層ビルが建設される予定だ。



画像提供：相模鉄道

東京メトロ

他路線への直通が充実、北綾瀬支線からの本線直通も開始

東京都心、とりわけ山手線圏内に9路線を張り巡らせる東京メトロ。銀座線・丸ノ内線以外は他の郊外路線と直通しており、乗り換え無しで都心アクセスを実現している。さらに利便性の向上にも余念がなく、今春からは綾瀬～北綾瀬間の千代田線支線から本線へ

の直通運転がスタート。早朝5・6時台は2本に1本が北綾瀬始発となる。今後は丸ノ内線でも方南町支線への直通運転を開始する予定。2020年には日比谷線に虎ノ門ヒルズ駅が開業予定など、東京メトロの今後からも目が離せない。



虎ノ門ヒルズ駅完成予定図。その名の通り、虎ノ門ヒルズのほか、銀座線虎ノ門駅とも直結予定